



ロバのシルベスターとまほうのこいし

ウィリアム・スタイグ 作

せた ていじ やく

評論社 1975年 1365円

32ページ 30×22cm

ロバのシルベスターは、ある日、燃えるように赤い小石を見つけました。これはなんでも願いをかなえてくれる魔法の小石だと気づいたシルベスターは、喜んで家へ帰ります。ところが途中でライオンに出くわし、恐ろしさのあまり「岩になりたい」と願ってしまったために、シルベスターはもとの姿に戻れなくなりました。家ではとうさん、かあさんがとても心配して探し回り、つらい日々を送って1年が経っていきます。

もと風刺漫画家のスタイグの絵はユーモアに溢れ、表情がとても微妙です。魔法の小石をめぐるファンタジーであると同時に、家族の愛情に満ちた1冊です。



わたしとあそんで

マリー・ホール・エッツ ぶん・え

よだ じゅんいち やく

福音館書店 1968年 1050円

29ページ 27×20cm

はらっぱへあそびにいった女の子は、ばったを見つけて「ばったさん、あそびましょ」とつかまえようとしてますが、ばったは逃げてしまいます。

かえるさんも、かめさんも、りすさんも、かけすさんも、うさぎさんも、へびさんも、みんな女の子が近よると逃げていってしまいました。

そこで、女の子が音を立てずに腰かけていると…。

息をひそめた表情、動物に囲まれた表情がすばらしく、女の子の喜びをゆっくりと伝えます。すべてのページに描かれているおひさまの、女の子を見守るあたたかいまなざしは、私たち大人のまなざしでもあるのでしょうか。

やわらかな黄色が心に残ります。

